

互いを理解し、認め、尊重し合う“多文化共生社会”実現のために 「中区多言語広報紙」日本語版を発行します！

中区は区民の1割以上が外国人であり、その比率は年々高まっています(令和2年2月現在 11.7%)。そこで中区役所は、外国人住民に対し、生活に役立つ情報を伝える多言語広報紙「春夏秋冬 Naka Ward Town News」を年4回、英語版と中国語版で発行しています。

このたび令和2年春号から、新たに日本語版も発行します。「外国人住民はどのようなことに悩んでいるのか」「中区役所として外国人住民に何を伝えたいのか」などを日本人住民にも伝えることで、**国籍を問わず互いを理解し、認め、尊重し合う“多文化共生社会”実現のための一歩**とします。

【中区多言語広報紙 発行状況(令和2年4月現在)】

言語	初刊	発行部数	配布場所
英語版	平成3年11月	4,100部	区役所、国際交流ラウンジ、市民利用施設、日本語学校、区内小・中・高等学校、駅、観光施設など 約270か所
中国語版	平成22年9月	4,400部	
日本語版	令和2年4月	1,000部	区役所、公共施設、市民利用施設、駅など 約40か所



中区では、外国人住民と日本人住民がよりよく暮らすために、行政情報や暮らしのルール、社会の制度など生活に役立つ情報を多言語広報紙として中国語と英語でお伝えしています。



日本語が分からなくても 一歩踏み出すということ

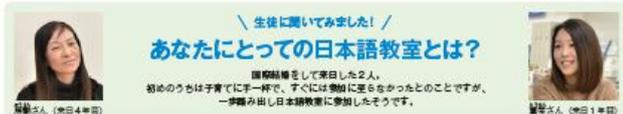
日本語が分からない、家族しか話し相手がいなくて、孤独を感じる。そんな悩みを抱えている人は少なくありません。新しい環境で積極的に行動することはなかなか難しいけれど、一歩踏み出すことで悩みを克服した人たちが中区にはたくさんいます。勇気を持って一歩踏み出した人たちがどのような場所を活用したのかを紹介いたします。

はじめの一歩「日本語教室」

来日して日が経っても参加しやすいのが日本語教室。中区には多くの日本語教室があります。開業日時や授業料はさまざまですが、参加者が口をそろえて言うのは、話し相手が多かった、場所が良かったということ。同じような境遇の人に会える場所にもなっています。



なか国際交流ラウンジ日本語教室にお邪魔しました！
中区役所別棟「なか国際交流ラウンジ」で開催している日本語教室は、年に2回の生徒募集があり、授業は週に2回。この日も募集定員のグループに分かれて和気あいあいと授業がすすんでいました。



あなたにとっての日本語教室とは？

国際結婚をして来日した2人。初めのうちは子育てに手一杯で、すぐには参加にまらなかったのですが、一歩踏み出し日本語教室に参加したそうです。

Q 日本語教室に参加したきっかけは？

A ママ友に声を聞いたことがきっかけ。日本語が分からなくても何とかなっていましたが、子どものことやこれからのことを考えて参加しました。この教室は、子どものお迎えの時間にも間に合うから、ちょうどいいと思いました。(藤さん)



Q 日本語教室のことをどう思う？

A ここでは、人とのつながりを持てるし、日本人の先生を通して日本のことを知ることが出来ます。それまで孤独だったけれど、今は一人じゃないと思えます。周りがサポートしてくれるから、間違えても話してみようと思うようになったし、自信を持てるようになりました。情報を得る意味でも大切な場所です。特にここは中国人のスタッフもいるから、リラックス出来ます。(麗さん)



Q 日本語教室に参加して変わったことは？

A 子どもを連れてママ友と一緒に公園に行ったり、児童館に行ったり、内行的でなかなか出かけられずいたり、けれど「一緒に行こう」と言える人ができました。先生も家族のように気にかけて、ふるさとにいるような感覚を持っています。(麗さん)

Q これからやりたいことは？

A 言いたいことを言いたいし、普通にコミュニケーションがとれるようになります。小学校の先生とも、もっとお話しがしたいと思っています。(麗さん)

中区多言語広報紙の主な内容

- 外国人住民にとってわかりにくい日本の制度や行政サービス
 - 日本での暮らしに役立つ情報・お知らせ
 - 中区近隣のお出かけスポット
 - なか国際交流ラウンジスタッフによる交流コラム
 - 日本の文化・習慣
- …などについて、背景や仕組みなども含め紹介しています！

中区役所HPに、英語版・中国語版・日本語版のPDFデータを掲載しています。過去の紙面も掲載中！



お問合せ先

中区区政推進課長 足利 有喜 Tel 045-224-8120